

# 平成29年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成30年5月

川西市（兵庫県）

計画期間：平成27年4月～平成32年3月（5年0ヶ月）

## 1. 中心市街地全体に係る評価

### 1. 平成29年度終了時点（平成30年3月31日時点）の中心市街地の概況

前計画では、再開発ビルの大規模リニューアルにより魅力的な商業環境を創出するとともに、地域資源を活用し、中心市街地に人々が回遊・滞留するための仕掛け作りを行い、商業の活性化を中心としたまちづくり活動の展開に取り組んできた。そして、核事業として進められてきたアステ川西の地下1階リニューアル事業等の実施により、川西能勢口駅周辺の魅力が回復した。さらに、川西市の中心市街地では、民間事業者による商業施設や住宅施設の整備、商業団体や商工会と市が中心となった様々なイベントが行なわれていたが、人をまちに長く滞在させることができなかったことが課題であった。

現計画で主要事業と位置付けている、駅周辺都市整備計画基本構想区域（約38ha）の北に隣接する約22.3haの中央北地区（以下「キセラ川西」という。）での各種整備事業について、平成29年7月にキセラ川西せせらぎ公園がオープン、4月にせせらぎ遊歩道南線、11月にせせらぎ遊歩道北線が開通するなど、事業が順調に進捗し、新たな賑わいが創出されている。

このほか、中心市街地における魅力的でにぎわいのあるまちづくり、まちを回遊・滞留するためのネットワーク構築、様々なイベント事業の展開などを、川西市中心市街地活性化協議会を中心に、商店会や商業団体、商工会等との連携で実施するなど、にぎわいと回遊性の創出に向けた取り組みにより、以前にましてにぎわいが創出されたと考えられる。その一方で、川西能勢口駅東地区の活性化が課題となっていたため、新規事業として「藤ノ木さんかく広場整備・運営事業」を追加。多くの市民の協力のもと、商業者・商店会、商工会・まちづくり組織と行政が一丸となって取り組んだ結果、日常的な賑わいが生まれつつある。今後の課題としては、川西能勢口駅と新たに賑わいの生まれたキセラ川西、藤ノ木さんかく広場への回遊性を意識した継続的ににぎわいを創出することが挙げられる。

#### 【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（中心市街地地域）	平成26年度 （計画期間開始前年度）	平成29年度 （フォローアップ年度）
人口	8347人	8737人
人口増減数	82人	11人
社会増減数	38人	124人
転入者数	656人	435人

各年度末3月31日時点の数値

### 2. 平成29年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

川西市中心市街地活性化協議会としては、行政、関係団体等と協議・調整を重ねながら、活性化事業に対して、意見や提案を行ってきた。基本計画に位置づけられた事業は概ね順調に進捗

しているものと考えている。

中心市街地の現況としては、キセラ川西せせらぎ公園がオープン、せせらぎ遊歩道が開通されたことで、新たな賑わいが創出され、昨年度まで微減が続いていた歩行者・自転車通行量（休日）についても増加に転じている。平成30年度は既存事業の継続実施に加え、新事業である「藤ノ木さんかく広場整備・運営事業」によって川西能勢口駅東地区に新たに創出された賑わいをエリア全体に波及させるため、駅周辺とキセラ川西の回遊性を生み出し、目標達成にアプローチしていきたいと考えている。

当協議会においても、計画事業を継続して実施する一方で、地域住民等からの十分な理解や参加のもと、中心市街地のさらなる魅力創出と活性化に向け、官民一体となって取り組む所存である。

## ・目標毎のフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
多彩な活動や交流が広がる中心市街地の創造	歩行者・自転車通行量 (休日)	67,830 人 /日 (H26)	71,727 人 /日 (H31)	66,221 人 /日 (H29)		
多彩な活動や交流が広がる中心市街地の創造	来街者の平均滞留時間	2.04 時間 (H26)	2.42 時間 (H31)	2.56 時間 (H29)		
暮らしたくなる魅力的な中心市街地の創造	人口の社会増減	4 人 / 年 (21fy-24fy 平均)	106 人 / 年 (27fy-31fy 平均)	148 人 / 年 (27fy-31fy 平均)		

#### < 取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類 >

取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

### 2. 目標達成見通しの理由

主要事業の進捗状況については4以降に記載するところであるが、キセラ川西では中心市街地の賑わいが創出されつつあり、民間マンションの建設も進んでいることから、今回のフォローアップの結果でも昨年に引き続き、「来街者の平均滞留時間」「人口の社会増減」について計画3年目を終えた時点で既に達成となった。

「歩行者・自転車通行量（休日）」については、2年連続で減少傾向を示していたが、微増している。これには、主要事業であるキセラ川西地区のハード整備が完成に向かっていくことや川西能勢口駅前の商業施設が新たに完成したことが考えられる。今後もキセラ川西地区などの新たな賑わいの創出に伴い、来街する人の量が大きく変化するものと想定していることから、目標が達成可能と判断した。

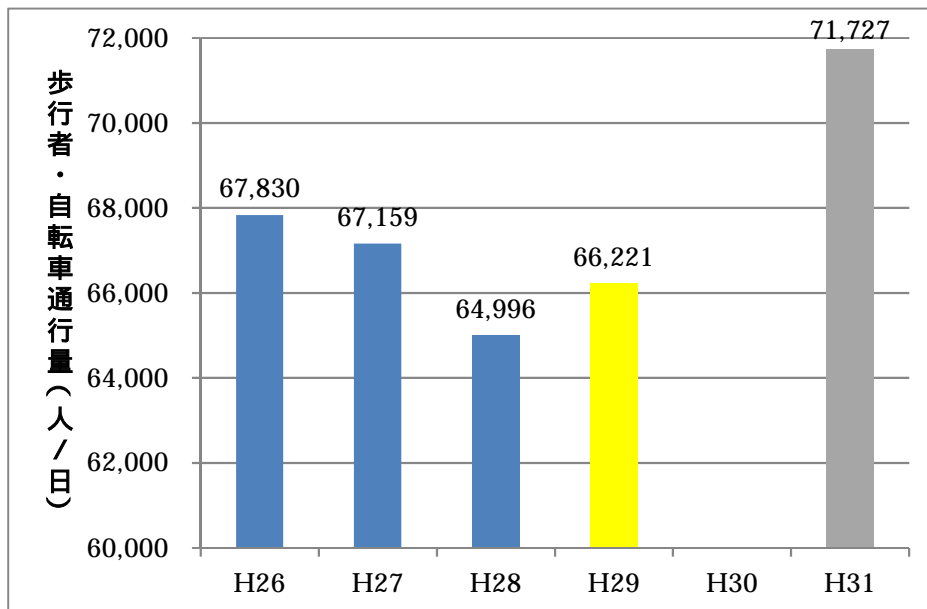
### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回のフォローアップから見通しに変更はない。

### 4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者・自転車通行量（休日）」 目標設定の考え方基本計画 P68～P72 参照

#### 調査結果の推移



年	(単位)
H26	67,830人/日 (基準年値)
H27	67,159人/日
H28	64,996人/日
H29	66,221人/日
H30	
H31	71,727人/日 (目標値)

調査方法：歩行者・自転車通行量調査

調査月：毎年11月実施

調査主体：川西市中心市街地活性化協議会

調査対象：中心市街地における休日10地点の歩行者及び自転車数

#### 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・08：(仮称)川西市低炭素型複合施設整備事業(川西市)

事業完了時期	平成30年度【実施中】
事業概要	中心市街地において、人々のあいとふれあいの場の創出を図るために位置付けている事業であり、文化ホールに加えて、福祉・保健・公民館機能が連携した複合施設を整備することで、にぎわいを創出する。
事業効果及び進捗状況	PFI手法により、文化関連施設、福祉・保健関連施設及び付帯施設(民間収益施設等)で構成する低炭素型複合施設を整備し、施設運営においてイベント開催や低炭素に関する情報発信、啓発活動等を実施することでエリアのにぎわいを創出する。平成30年度に複合施設が完成する予定である。

06：中央公園整備事業(川西市)

事業完了時期	平成29年度【済】
事業概要	キセラ川西のシンボルとなる公園で、周辺には総合体育館や市民温水プールなどがあり、これらの施設との連携が期待される。市民の憩い

	<p>の場であるとともに、防災機能を有した公園を整備することで、安全で快適な中心市街地を形成する。</p>
事業効果及び進捗状況	<p>平成29年7月8日に防災機能を有するキセラ川西せせらぎ公園（中央公園）が開園した。</p> <p>開園後は、老若男女問わず日常的な利用が行われており、市民の憩いの場となっている。また、市民が主体となったイベントも積極的に実施されており、公園及びまちの活性化につながることが見込まれる。</p> <p>歩行者通行量について、調査地点、の合計が35,578人で前年度より661人増加、調査地点、の合計が2,213人で前年度より25人減少している。</p>

05：都市計画道路せせらぎ遊歩道整備事業（川西市）

事業完了時期	平成29年度【済】
事業概要	<p>キセラ川西のシンボルとなる遊歩道を整備することにより、キセラ川西内の回遊性を高めるとともに、コミュニケーションの場としての空間を創出する。</p>
事業効果及び進捗状況	<p>平成29年4月3日にせせらぎ遊歩道南線が、11月27日にせせらぎ遊歩道北線が開通した。</p> <p>開通後は、ワークショップで結成された自然観察チームやホテル復活プロジェクトのメンバーの活躍の場になっており、市民に親しまれる遊歩道になることが期待される。</p> <p>歩行者通行量について、調査地点、の合計が35,578人で前年度より661人増加、調査地点、の合計が2,213人で前年度より25人減少している。</p>

11：キセラ川西マンション建設事業（川西市）

事業完了時期	平成27年度【済】
事業概要	<p>キセラ川西に、環境共生型ライフスタイルを提案・実践する住宅供給を促進することで、中心市街地の居住人口の増加を図り、にぎわいを創出する。</p>
事業効果及び進捗状況	<p>平成25年度から実施しているPFI事業の一環として、民間事業者が、平成26年度から着工し、平成27年度末に完了。キセラ川西せせらぎ公園やせせらぎ遊歩道が完成し、調和した景観の実現されることで賑わいが創出されたことで、202戸すべてが契約済みとなった。</p> <p>歩行者通行量について、調査地点、の合計が35,578人で前年度より661人増加、調査地点、の合計が2,213人で前年度より25人減少している。</p>

目標達成の見通し及び今後の対策

（歩行者通行量について（地点についてはいずれも基本計画書69頁参照。以下同じ。））

- 1．地点別通行者数を分析すると、もっとも通行量が多いのが地点（川西能勢口駅南の歩行者デッキ）で2万人程度の通行量となっている。次いで、地点（アステ川西南側の歩行者デッキ）

キ)、地点 (川西能勢口駅北の歩行者デッキ) が1万人規模の通行量となっている。 ~ の3地点で、前回調査同様に駅周辺総通行量の6割以上を占め、川西能勢口駅を中心とした人の流れが形成されている。

- 2.平成28年度に実施した前回の調査と比較すると、地点 (モザイクボックス西の歩道) が約2,700人増と、88.2%の増加を示している。また、平日の歩行者通行量より休日の歩行者通行量が多くなっている。これは新しい商業施設ができたことにより休日の往来が増えたためだと考えられる。しかし、地点 (パルティ前) が約1,500人減と、29.3%の減少となっている。これは、地点 に新たな商業施設が開設されたため、人の流れが変わっていったものと考えている。

#### (自転車通行量について)

- 1.自転車通行量については地点 及び において測定している。
- 2.歩行者通行量と同じく、平日の自転車通行量の数が休日の自転車通行量を上回っている。前年度と比べ、微減傾向にあることから、キセラ川西への回遊性の向上を引き続き目指す必要がある。

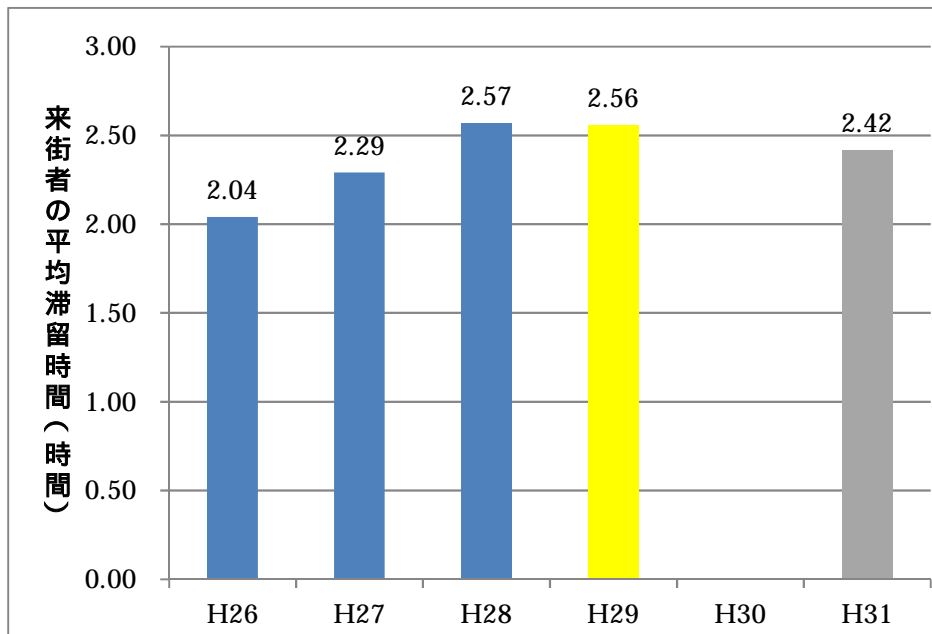
#### (総括)

歩行者通行量の目標に関する事業としては、川西能勢口駅周辺での商業振興を目的としたイベント事業を前年度から引き続き実施している。主要事業であるキセラ川西せせらぎ公園のオープン、せせらぎ遊歩道の開通、また駅前に新たに商業施設がオープンした影響もあり、全体的な歩行者通行量は初めて増加傾向に転じた。

今年度は、「きんたくんバル」や「川西まちなか美術館」といったまちなかを歩くイベントの開催を継続的に実施していくほかにも、「藤ノ木さんかく広場」でのイベントにより川西能勢口駅東側に新たに生まれつつある賑わいを中心市街地全体の活性化に繋げられるよう事業を実施する考えであり、最終的には、新たに誕生したキセラ川西と、川西能勢口駅周辺を中心としたエリアという2つの拠点の回遊性を高め、基本計画に掲げる基本方針の一つである『市民活動・交流が活発な、みんなが行きたくなる魅力あふれるまち』の達成に向け、歩行者通行量の増加を目指していく。

「来街者の平均滞留時間」 目標設定の考え方基本計画 P72～P76 参照

**調査結果の推移**



年	(単位)
H26	2.04 時間 (基準年値)
H27	2.29 時間
H28	2.57 時間
H29	2.56 時間
H30	
H31	2.42 時間 (目標値)

調査方法： まちなか滞留・実感調査（アンケート）

調査月： 6～7月

調査主体： (株)地域環境計画研究所

調査対象： 川西能勢口駅周辺

**目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果**

・08：(仮称)低炭素複合施設整備事業(川西市)【再掲】

事業完了時期	平成30年度【実施中】
事業概要	(再掲)
事業効果及び進捗状況	PFI手法により、文化関連施設、福祉・保健関連施設及び付帯施設(民間収益施設等)で構成する低炭素型複合施設を整備し、施設運営においてイベント開催や低炭素に関する情報発信、啓発活動等を実施することでエリアのにぎわいを創出する。平成30年度に複合施設が完成する予定である。

06：中央公園整備事業(川西市)【再掲】

事業完了時期	平成29年度【済】
事業概要	(再掲)
事業効果及び進捗状況	平成29年7月8日に防災機能を有するキセラ川西せせらぎ公園(中央公園)が開園した。 開園後は、老若男女問わず日常的な利用が行われており、市民の憩いの場となっている。また、市民が主体となったイベントも積極的に実施されており、公園及びまちの活性化につながるが見込まれる。

05：都市計画道路せせらぎ遊歩道整備事業(川西市)【再掲】

事業完了時期	平成29年度【済】
--------	-----------

事業概要	(再掲)
事業効果及び進捗状況	平成29年4月3日にせせらぎ遊歩道南線が、11月27日にせせらぎ遊歩道北線が開通した。 開通後は、ワークショップで結成された自然観察チームやホテル復活プロジェクトのメンバーの活躍の場になっており、市民に親しまれる遊歩道になることが期待される。

: きんたくんバル ( 中心市街地活性化協議会、きんたくんバル実行委員会 )

事業完了時期	平成23年度～【実施中】
事業概要	川西能勢口周辺の美味しい・楽しいお店を広く知ってもらうために、各店舗をPRするとともに、「食べ歩き、飲み歩き」のイベントを実施し、来街者に参加してもらうことでにぎわいを創出する。
事業効果及び進捗状況	平成29年度は春1回実施し、48店舗の参加があった。滞留時間の創出には「食事・喫茶」が必須の機能であり、バル独特の雰囲気、普段行き慣れない店にも気軽に立ち寄れることから、消費効果に加え、来街時に普段使いしてもらえる店舗を増やす効果も見込んでいる。また、新たな客を呼び込むため、秋は「かわにし・まちなか祭」とネーミングを変え、屋台バルを実施することで賑わいを創出した。

#### 目標達成の見通し及び今後の対策

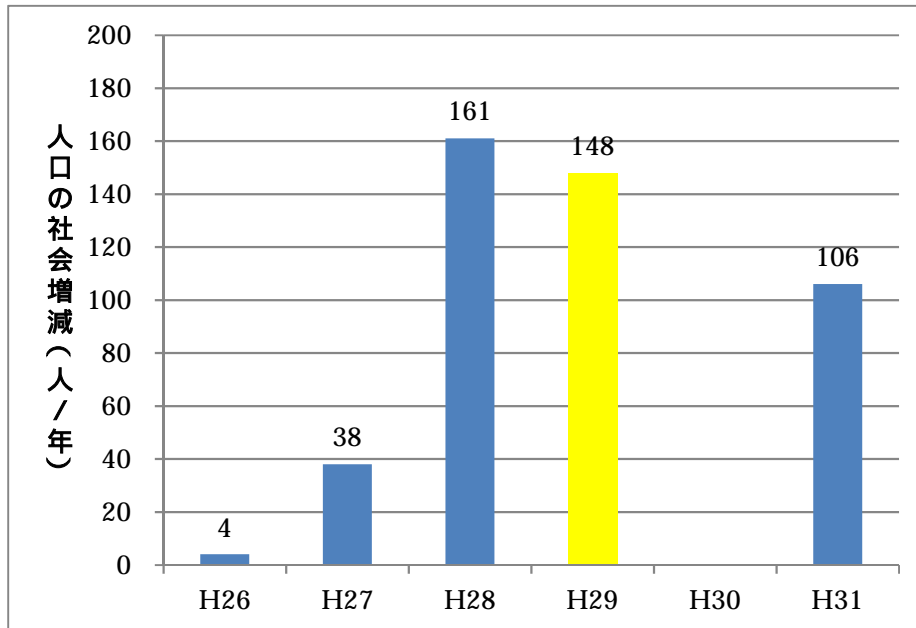
中心市街地内の滞留時間を計測したところ、平日で2.89時間、休日で2.24時間と平日のほうがやや長く、全体の平均時間は2.56時間と、前回調査から0.01時間減少してはいるものの、2.42時間という計画上の目標値を達成した。

アンケートで特筆すべきだったのは、項目として新しく追加した『雰囲気の良さ』である。結果については「とても満足 or 満足」の回答が90%を占めており、「不満」という回答はわずか7%に留まっていた。また、前回より引き続きの質問である『居心地の良さ』については「とても満足 or 満足」の回答が89% ( 前回55% )、 「不満」という回答は9.1% ( 前回4% ) と5ポイントも増加していた。この結果は、H29年度調査よりアンケートの選択肢の中に「ふつつ」を削除している点も影響していると考えられる。

また、新設の質問である「どのようなときにまちなかにぎわいを感じるか」という質問の結果は、「人がたくさんいる」、「(開店している)お店がたくさんある」が上位を占めており、日常的に多くの人がいることや店が営業していることで、にぎわっていると感じている人が多いという結果となった。

今回の調査では、「人がたくさんいる」「お店がたくさんある」状態を「まちなかにぎわいがある」と感じる人が多いという結果であったため、まちなかに求められているのは「日常のにぎわい」であることがわかった。平成29年度より「藤ノ木さんかく広場整備・運営事業」を追加し、新たな賑わいが生まれつつあるので、引き続き実施し、日常的な賑わいとして定着させるとともに、新たに誕生したキセラ川西との回遊性を向上させることで更なる滞留時間の増加を目指したい。

「人口の社会増減」 目標設定の考え方基本計画 P77～P79 参照  
調査結果の推移



年	(単位)
H26	4人/年 (21fy-24fy平均) (基準年値)
H27	38人/年 (27fy-31fy平均)
H28	161人/年 (27fy-31fy平均)
H29	148人/年 (27fy-31fy平均)
H30	(27fy-31fy平均)
H31	106人/年 (27fy-31fy平均) (目標値)

調査方法：住民基本台帳データから毎年度の人口の社会増減を集計

調査月：毎年4/1現在

調査主体：川西市

調査対象：中心市街地エリア（10地域）

目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

11：キセラ川西マンション建設事業（川西市）【再掲】

事業完了時期	平成27年度【済】
事業概要	(再掲)
事業効果及び進捗状況	平成25年度から実施しているPFI事業の一環として、民間事業者が、平成26年度から着工し、平成27年度末に完了。キセラ川西せせらぎ公園やせせらぎ遊歩道が完成し、調和した景観の実現されることで賑わいが創出されたことで、202戸すべてが契約済みとなった。

12：サービス付高齢者向け住宅施設整備事業（川西市）

事業完了時期	平成27年度【済】
事業概要	高齢者の居住機能の強化を図るために、川西能勢口駅前にデイサービス付住宅施設を整備することで、中心市街地の居住機能を向上させる。
事業効果及び進捗状況	平成27年7月から事業を開始している。平成29年4月現在、55戸数のほぼすべて埋まっていることから、中心市街地における社会増に寄与しているものと考えられる。

目標達成の見通し及び今後の対策

平成30年4月1日時点において、中心市街地の人口の社会増減は前年度までの平均値と比べ



ると減少したが、引き続き社会増状態であり、今年度も目標地である 106 人を達成することができた。これは主要事業であるキセラ川西せせらぎ公園のオープン、せせらぎ遊歩道の開通によりキセラ川西に新たなにぎわいが生まれ、大型マンションがすべて契約済となったことや、サービス付高齢者住宅についても需要を捉え、ほぼすべて入居していることが要因である。

対象 10 地域を地域別に分けて傾向を推し量ると、火打 1 丁目が最も大きな社会増を計上している。これは、キセラ川西マンション建設事業の居住者が増加したことが要因と考えられる。反面、小花 1 丁目、栄町地域においては、同地域からの転出、市内転居が多く見られた。

また、中心市街地内での民間マンションの建設が進んでいることに加え、新たなサービス付き高齢者住宅の建設も進んでいることから、更なる社会増が見込まれる。